

第2学年音楽科学習指導案（略案）

○組 計 37 人
指導者 ○○ ○○

- 1 題材 たのしいリズム
 教材 音楽遊び「リズムのまねっこ」
 ◎「かじやのポルカ」 ヨゼフ シュトラウス作曲
 「山のポルカ」 芙蓉明子作詞 チェコ民謡（本時主教材）

2 本時（6／6）

(1) 目標

- ア 2拍子の拍の流れにのって、リズムを合わせて演奏することができる。【知識及び技能】
 イ 2拍子の拍の流れにのって、リズムが合っていることを感じ取ることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の展開に当たって

拍の流れにのって演奏することで豊かな音楽表現ができることをとらえ直すために、課題把握の段階でこれまでの自分たちの演奏と範奏とを比較鑑賞する活動を取り入れるようにする。また、自分たちの音楽表現の高まりを実感することができるようにするために、まとめの段階でこれまでの自分たちの演奏と、練習をした後の演奏とを比較鑑賞する活動を取り入れるようにする。

(3) 実際

| 過程 | 主な学習活動 | 時 | ○教師の具体的な働きかけ |
|---------------|--|-----------|---|
| 課題把握 | 1 「山のポルカ」の、これまでの自分たちの演奏と範奏とを聴き比べ、感じたことを話し合う。 ・ 間違えずに、上手に合奏しているよ。 ・ わたしたちより、みんなリズムをきちんと合わせてひいている。 2 本時のめあてについて話し合う。 おじさんがおどっているように、リズムをきちんと合わせてがっそうしよう。 | (分) 10 | ○ 子供たちが2拍子の拍の流れを感じ取り、拍の流れにのることをとらえ直すことができるようにするために、前時で録音した演奏と、範唱とを聴き比べる活動を取り入れるようにする。その際、子供たちが観点をもって聴くことができるようにするために、「リズムの合わせ方に気を付けて聴いて比べてみましょう」と助言を加えてから聴かせるようにする。 ○ 本時のめあてを導き出すために、「どんなことに気を付けて練習したら、いい合奏になっていくかな」と問いかけるようにする。 |
| 課題追求 表現の工夫 | 3 リズムを合わせて練習する。 (1) 全員で手拍子を合わせて練習する。 ・ 主なふしの鍵盤ハーモニカのリズム ・ バッテリー奏のリズム (2) 楽器をつけて練習する。 ・ 主なふし（鍵盤ハーモニカ） ・ 下のリズム（タンブリン） ・ 上のリズム（すず） | 25 | ○ 全員にぴったりリズムを合わせることを感じ取らせながら練習させるために、バッテリー奏のリズムと旋律のリズム打ちを交代でさせるようにする。その際、バッテリー奏は強拍と弱拍の違いを生かしながら練習させるようにする。 ○ いろいろなパターンで練習できる楽しさを味わうことができるようにするために、手合わせや楽器を使って練習させるようにする。 |
| 相互発表・鑑賞 | 4 楽器を分担して発表する。 ・ このグループは、みんなでリズムをぴったり合わせて合奏していました。 | 10 | ○ 観点をもってお互いの発表を聴くことができるようにするために「リズムがきちんと合っているか気を付けて聴こう」と助言をしてから発表させるようにする。 ○ 練習した後の演奏の高まりを実感することができるようにするために、前時の演奏と練習後に録音した演奏を比較鑑賞させるようにする。 |
| まとめ | 5 全員で合奏し、録音を聴いて学習のまとめをする。 ・ みんなでリズムをぴったり合わせることができて、楽しく合奏できました。 | 10 | |